

●R7年度に本事業で重点的に取り組む課題に応じた目標等の設定様式

課題の類型 1	課題の類型 2	背景・現状・課題の詳細	左記課題の解決のために 令和7年度に実施する具体的な取組	左記具体的な取組のうち、令和6年度にお ける取組の評価・分析を踏まえた取組	本事業で達成する目標 (アウトカム)	目標の達成度を 測る指標	目 標 値	本 年 度 の 実 績 値	アウトカムの達成度に関する評価・分析 (事業における成果、課題、改善点等)
①学校運営上 の課題	社会に開かれ た教育課程へ の対応	各小・中学校では、毎年度、「地域連携担当教職員」を選任することになっているが、新たに着任・選任された場合などにおいて、地域との関係性や団体、人材、企業等の情報不足から、地域との連携に係る取組の企画立案、調整、実施に苦慮している。 「働き方改革の推進」もあり、学校が独自に、連携・協力してくれる地域団体や人材、企業等を開拓することは困難な状況にある。	学校・家庭・地域と公民館が互いに連携しながら、地域の人材・環境等を活用し、子どもたちの「生きる力」を育む様々な体験・交流活動を行うとともに、地域ぐるみで子どもを守り育てる協力体制を整備し、以って「地域とともにある学校づくり」及び「学校を核とした地域づくり」を推進する。	・教育委員会内に、事業推進コーディネーターを1名配置。 ・公民館全37館中、基幹的な公民館に、社会教育指導員を6名配置。 ・事業推進コーディネーター、社会教育指導員、公民館職員を「地域学校協働活動推進員」に位置付け。 ・公民館がコーディネーター役となり、地域連携担当教職員と連携しながら、学校のニーズに応じた地域学校協働活動の取組について、企画立案、調整、実施を支援。 ・上記体制整備と併せ、地域学校協働活動推進員向けの「地域学校協働活動研修会」や「事例研究発表会」等によるスキル向上に取り組み、「社会に開かれた教育課程」の実現に向けた地域学校協働活動の推進を図る。	公民館を中心とした支援体制の構築により、学校のニーズに応じた地域との連携が適切かつスムーズに実施され、地域学校協働活動の更なる推進が図られる。 また、地域学校協働活動に係る学校又は教職員の負担軽減がなされ、「働き方改革の推進」に寄与する。 (将来的には、学校が独自に、地域の自発的な連携・協力を得られる環境づくりを目指すもの)	学校単位・授業単位における地域連携の取組について、学校に対する事後アンケートにより、下記項目(案)を5段階評価等により評価し、取組の総合的な「充足度」を測る。 【具体的な評価項目】 ・講師(地域団体、人材、企業等)の選定が適正だったかどうか ・取組の企画立案、調整、実施がスムーズに行えたかどうか ・学校側の目的(児童・生徒への学習目的)を達成できたかどうか ・教職員の負担軽減がなされたかどうか (など)	90%	98%	学校単位・授業単位における地域連携の取組について、学校に対する事後アンケートにより、下記項目(案)を5段階評価等により評価し、取組の総合的な「充足度」を測った。 ※達成度については、各項目とも「とてもそう思う」「そう思う」の合計値 【具体的な評価項目と達成度】 ・講師(地域団体、人材、企業等)の選定が適正だった⇒99% ・取組の企画立案、調整、実施がスムーズに行えた⇒97% ・学校側の目的(児童・生徒への学習目的)を達成できた⇒99% ・教職員の負担軽減がなされた⇒94% ・地域や公民館との連携が深まった⇒97% ・本事業は、地域とともにある学校づくりに役立っている⇒100% 以上のとおり、令和7年度の事業においては各項目とも97%以上の達成度であり、総合的な充足度は非常に高い(各達成度の平均99%)結果となった。
③学校と家庭 の課題	放課後等にお ける多様な体 験活動	現在の学校週5日制は、学校・家庭・地域の三者が連携し、役割分担しながら、社会全体で子どもを育てるという基本理念を踏まえて導入されたものであるが、スポーツ少年団への参加や習い事など様々な経験を積んでいる子どもたちがいる一方、土曜日を必ずしも有意義に過ごせていない子どもたちも少なからず存在する。 子どもたちの土曜日における学習環境の充実に向けた取組の強化が求められている。 (参考) 文部科学省「土曜日の教育活動推進プロジェクト」	地域の多様な経験・技能を持つ人材・企業・高等教育機関等の協力の下、学校・家庭・地域と公民館が連携し、地域の教育力を高めながら、子どもたちの成長を支えるより豊かな教育環境を提供するため、主として土曜日に、多様な観点から、体系的・継続的な「土曜学習」プログラムを計画・実施している。	・教育委員会内に、土曜学習コーディネーターを2名配置。 ・公民館全37館中、基幹的な公民館に、社会教育指導員を6名配置。 ・土曜学習コーディネーター、社会教育指導員、公民館職員が中心となり、実施を希望する小学校との協議により、地域の多様な経験・技能を持つ人材、企業、高等教育機関等の協力の下、主として土曜日に、多様な観点から体系的かつ継続的な「土曜学習」プログラムを計画・実施する。	土曜日における様々な体験学習の機会提供により、子どもたちの豊かで有意義な学習環境の整備が図られる。 自然環境や郷土文化・歴史、工場見学、農業体験、科学実験など、学校の教育課程以外における地域と連携した様々なプログラムの実施により、子どもたちの情操教育の充実に資する。 公民館を中心とした実施体制により、学校の負担を最小限に抑えながら、地域全体で子どもたちの成長を支える環境づくりに寄与する。	学習効果が得られた講座の割合(フェイススケール(ふりかえりカード)により子ども自身が学習振り返り、またその結果や学習内容、子どもの様子等を踏まえ、土曜学習コーディネーターがその講座の学習効果を分析・評価することで、本事業が子供たちの学習の質の向上や多様な体験の機会創出につながったかを測る。)	80%	95%	・学習効果が得られた講座の割合 フェイススケール(ふりかえりシート)により子ども自身が学習を振り返り、またその結果や学習内容、子どもの様子等を踏まえ、土曜学習コーディネーターがその講座の学習効果を分析・評価することで、本事業が子供たちの学習の質の向上や多様な体験の機会創出につながったかを測った。 目標 学習効果が得られた講座が、全講座数の80%以上 →実績 95% 評価済み講座173講座 学習効果が得られた講座 165講座 割合 95% ※ふりかえりシートにおける「学習がおわったあとのきもち(満足感)」について、「たいへんまんぞく」「まあまあまんぞく」と答えた児童の合計が80%以上の講座 ・土曜学習コーディネーターの分析評価 学習効果が得られた講座の割合や学習内容、子どもの様子等を踏まえると、本事業が子供たちの学習の質の向上や多様な体験の機会創出につながったと考える。 学習効果の高い事業であるものの、経費やマンパワーの制約で事業対象校が限られていることから、今後は対象校や参加児童数を拡大することができる手法を検討したい。